



COLLO-FULL

Enjoy to Make Collotype!

コロタイプオーダーサイト

コロタイププリントをもっと手軽に、お手元へ
名刺サイズ、ポストカードサイズ、8×10inchのコロタイププリント
をオンラインから簡単にオーダー
一度やってみたかった…! そんなご期待にお応えします。



collo-full.com



美術工房
京都 **便利堂**

www.benrido.co.jp

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町302番地

tel. 075-231-4351 / mail. info@benrido.co.jp

職人の技と感性

便利堂のコロタイプ

Benrido Collotype Atelier



文化財を遺し伝える
表現を追求する

手間ひまをかけ
職人の手でつくるからこそ生み出せる感動

コロタイプをご存知でしょうか。

写真術が生まれて間もない19世紀中頃にフランスで発明された、
顔料による写真印画技法です。写真技術を応用したこの世界最古の印刷技法は
職人の技と感性に支えられたまさに伝統技術です。

写真をそのまま版に使うからこそ可能な繊細さ、豊かさ、なめらかさ。

日本で唯一、多色刷コロタイプ工房をもつ便利堂は京都の地で1世紀以上にわたって
この技術を伝承してきました。

歴史が培った熟練の手わざと、効率だけにとらわれないこだわり。

すべてはその一枚を完成するために費やされます。



再現

よみがえる失われた至宝—法隆寺金堂壁画とコロタイプ

1887(明治20)年に書店として創業した便利堂がコロタイプ工房を開設したのは、1905(明治38)年です。以来、文化財撮影と印刷物を通して文化財の保護や研究・普及に貢献してきました。これまで2500件を超える日本の文化財や美術品の複製制作を手掛けてきましたが、なかでもその象徴的な存在が法隆寺金堂壁画の複製事業です。国宝釈迦三尊像を囲む四方の壁に描かれた12面の壁画は、東洋の至宝と謳われ、その美術史的価値が高く評価されてきました。しかし1949(昭和24)年に不慮の火災に見舞われ、痛ましい姿となってしまいました。幸い1935(昭和10)年に便利堂によって、当時の写真技術の粋を集めたガラス乾板による精巧な写真撮影が行われており、1967(昭和42)年にこの写真原板を用いたコロタイプを下地とした「再現壁画」が完成し、往時の姿をよみがえらせることが出来ました。この唯一無二の写真原板は、2015(平成27)年に国の重要文化財に指定されています。



法隆寺金堂壁画撮影風景 1935年



重要文化財 法隆寺金堂壁画原寸大分割ガラス乾板 法隆寺蔵

その他の実績

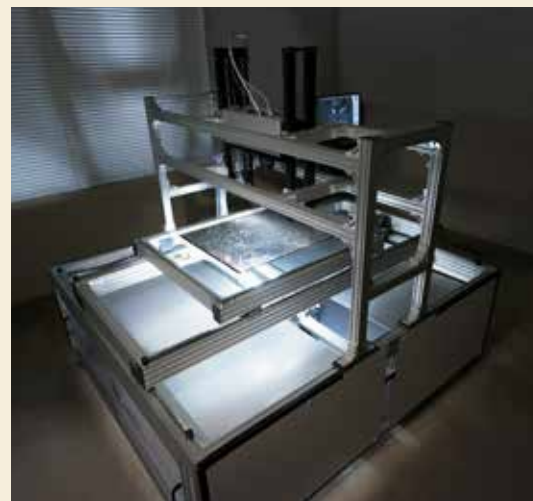
- ・国宝 高松塚古墳壁画コロタイプ複製 1972年撮影、2017年複製制作
- ・東大寺戒壇院千手堂宝形造厨子扉絵コロタイプ複製、2001年

貴重写真原板の画像保存と活用 ガラス乾板専用超高精細スキャナー

法隆寺金堂壁画のガラス乾板をはじめ、貴重な写真原板が伝世されていますが、便利堂はこれらの画像保存と活用を目的としたアーカイブを積極的に行っています。2016年には京都大学との共同研究を行い、世界に例をみない大型ガラス乾板対応可能な超高精細スキャナーを開発しました。文化財そのものの保存に貢献するだけでなく「うつされた文化財」としての画像にも貢献していきたいと考えます。

実績

法隆寺金堂壁画 ガラス乾板 スキャニング事業 2019~2020年



写真用超高精細スキャナー



重要文化財 法隆寺金堂壁画第六号壁 阿弥陀浄土図 コロタイプ複製 1937年

伝承

展示・研究としての複製、危険分散としての複製

昨今の相次ぐ天災を体験するわたしたちは、文化財の保存と公開という命題の中で日本の重要な文化財資源をいかにして後世に遺すかという大きな課題に直面しています。そのひとつの解決策として、原本を厳重に保存し平時は精巧な複製を用いて展示・研究を行う、また、複製で副本を作ることにより原本に万が一のことがあった場合に備えるということが考えられます。これらの例に「正倉院文書 全800巻複製事業」と「宮内庁書陵部複製事業」が挙げられます。

その他の実績：

- ・国宝 一遍上人絵伝(一遍聖絵)全12巻 複製 (原本 清浄光寺) 藤沢市教育委員会 1993~2000年
- ・国宝 彦根屏風 複製 (原本 彦根市) 彦根城博物館 1986年
- ・国宝 御堂関白記 複製 (原本 陽明文庫) 立命館大学出版部 1936年



正倉院文書複製の撮影風景

[文化財複製になぜコロタイプがえられるのか]

複製に適した高い撮影技術

精巧な複製を制作するためには、まずその原本を非常に高い精度で正確に撮影することが要求されます。便利堂では、1905(明治38)年のコロタイプ工房開設に合わせ、文化財の撮影を専門とする写真技師を社内に配しました。以来、長きにわたり数々の重要な文化財や美術品の撮影を遂行してきました。便利堂の写真技師が対峙するものは特に繊細な配慮を必要とします。撮影時には美術品を扱うための専門知識が必要となるだけでなく、対峙物のもつ美に反応し写し出す心も持ち合わせなければなりません。



御堂関白記 複製 (原本 陽明文庫) 1936年

宮内庁書陵部複製事業

宮内庁書陵部には、代々皇室に伝わってきた貴重な古典籍や古文書類が所蔵されており、その数およそ39万点にもおよびます。この貴重な文化財を継承するために宮内庁が長年取り組んでいるのが古典籍の複製事業です。この事業の契機は、わが国の多くの文化財が灰燼に帰した1923(大正12)年の関東大震災でした。宮内庁の古典籍も近隣火災の類焼の危機に見舞われましたが、幸い無傷でのこりました。この災害を教訓とし、貴重な文化財の亡失を防ぎ、万一に備えるための複製事業が1931(昭和6)年より始まりました。この事業は、精巧な複製を制作し、それを各地で保管することによって危険分散するという目的のもと、現在も続いています。



正倉院文書 複製 (原本 正倉院宝物) 国立歴史民俗博物館 1982年~現在

正倉院文書 全800巻複製事業

正倉院文書とは、東大寺の正倉院に保管されてきた奈良時代の戸籍など当時の社会を知る貴重な文書群です。しかし、一般の方々はもちろん研究者にとっても、実際に原本を見る機会は年に一度の曝涼(虫干し)期間中に開催される「正倉院展」のみに限られます。このような状況を鑑み、1982(昭和57)年より国立歴史民俗博物館が正倉院文書の複製事業をスタートさせました。研究の為の熟覧に耐えうる原本同様の精巧な複製が制作できる技法としてコロタイプが採用されました。事業が始まって約40年となりましたが、全巻完成までにはまだ数十年を要する大事業です。

帰郷

ご分身としての複製、里帰りとしての複製

美術品や文化財はさまざまな理由や経緯を辿り、人から人へとその所在を変えていきます。原本保存のために手元に置いておくことができない場合や、環境の変化や経年の劣化によって、元の姿を留めることが困難となることもあります。そのような時に、コロタイプによって精巧に作られた複製が元の形状を得て持ち主の手元に届けることができれば、特別な意味を帯びることは言うまでもありません。わたしたちは複製制作を通し、ご分身としてのお身代わりや流出文化財などのゆかりの地への里帰りにも貢献します。

その他の実績:

・下関美術館 狩野芳崖筆「悲母観音(原本 フリア美術館)」里帰り複製 1984年

・京都・相国寺 伊藤若冲筆「釈迦三尊像」ご分身複製 「動植綵絵(原本 宮内庁三の丸尚蔵館)」
里帰り複製、全33幅制作事業 2006～2012年

[文化財複製になぜコロタイプがえられるのか]

コロタイプの優れた特性

1 画像情報が版に直結

撮影した写真の画像をそのまま版に焼き付けますので、原本の持つデータを正確に再現します。

2 連続諧調による非常に滑らかな濃淡表現

オフセットやインクジェットにみられる点の集合(網点)がないので、色彩の微妙なニュアンスや筆線の繊細さが原本同様に表現できます。

3 すべての色を別々に刷る

赤・青・黄・黒などの基本色を掛け合わせて色を表現するのではなく、原本の色彩に合わせた固有の色のインキを調合し、木版画のように一色ずつ重ね刷りして表現するため、クリアで力強いタッチが生まれます。

4 優れた耐久性

平均60%の顔料を含む非褪色性に優れたコロタイプ専用インキを使用します。また、用紙には日本古来の伝統技法で漉かれた和紙を用います。



琳派400年記念「重要文化財 尾形光琳筆 風雷神神図・酒井抱一筆 夏秋草図(原本 東京国立博物館)」両面屏風 復元複製里帰り事業 2015年



岐阜・来振寺「国宝 五大尊像」ご分身複製事業 2008年



(夏秋草図屏風)
原本保存の為、現在は別々の屏風に
仕立てられている。

複製による里帰り事業

様々な理由で、文化財が本来の所蔵者やゆかりの地域にない場合があります。原本を戻すことは難しいですが、複製ならばそれが可能になります。文化財があるべき場所にあるということは、歴史を知り伝統を未来へ受け継ぐためにも、とても意味があることだと考えます。また、原本の形態が保存のために変更されていたり、あるいは分割されて所蔵者が分かれているなど、現状が本来の姿と違う場合にも、複製ならばそれらを元の姿に復元することも可能です。

御本尊のご分身(お身代わり)複製事業

ご尊像などの仏画は、貴重な文化財であるとともに信仰の対象でもあります。貴重な信仰の対象であるほど、大切にお守りするためにミュージアムなど保管設備の整った場所に寄託され、本来あるべき場所にお祀りできないというジレンマがあります。仏画などは古くから写本を作ることによって信仰を継承してきた伝統があります。コロタイプによる複製制作は、まさにお身代わりを作る現代の写本事業です。熟練した職人の手によって丹精込めて作り上げられた複製だからこそ、魂が込められ開眼されて新たな信仰の対象となりうるといえるでしょう。

コロタイプ複製の主な実績



国宝 高松塚古墳壁画 複製 (原本 国・文部科学省所管) 2017年



国宝 両界曼荼羅図(西院本)胎藏界複製 (原本 東寺) 香川県立ミュージアム 1999年



三溪園臨春閣 天楽の間・次の間 複製 1994年



顧愷之筆 女史箴図巻 複製 (原本 大英博物館) 大英博物館 1966年



海獣絵馬 複製 (原本 五郎島八幡神社) 石川県立歴史博物館 2002年



草戸千軒町遺跡出土木簡 複製 広島県立歴史博物館(原本とも) 1992年



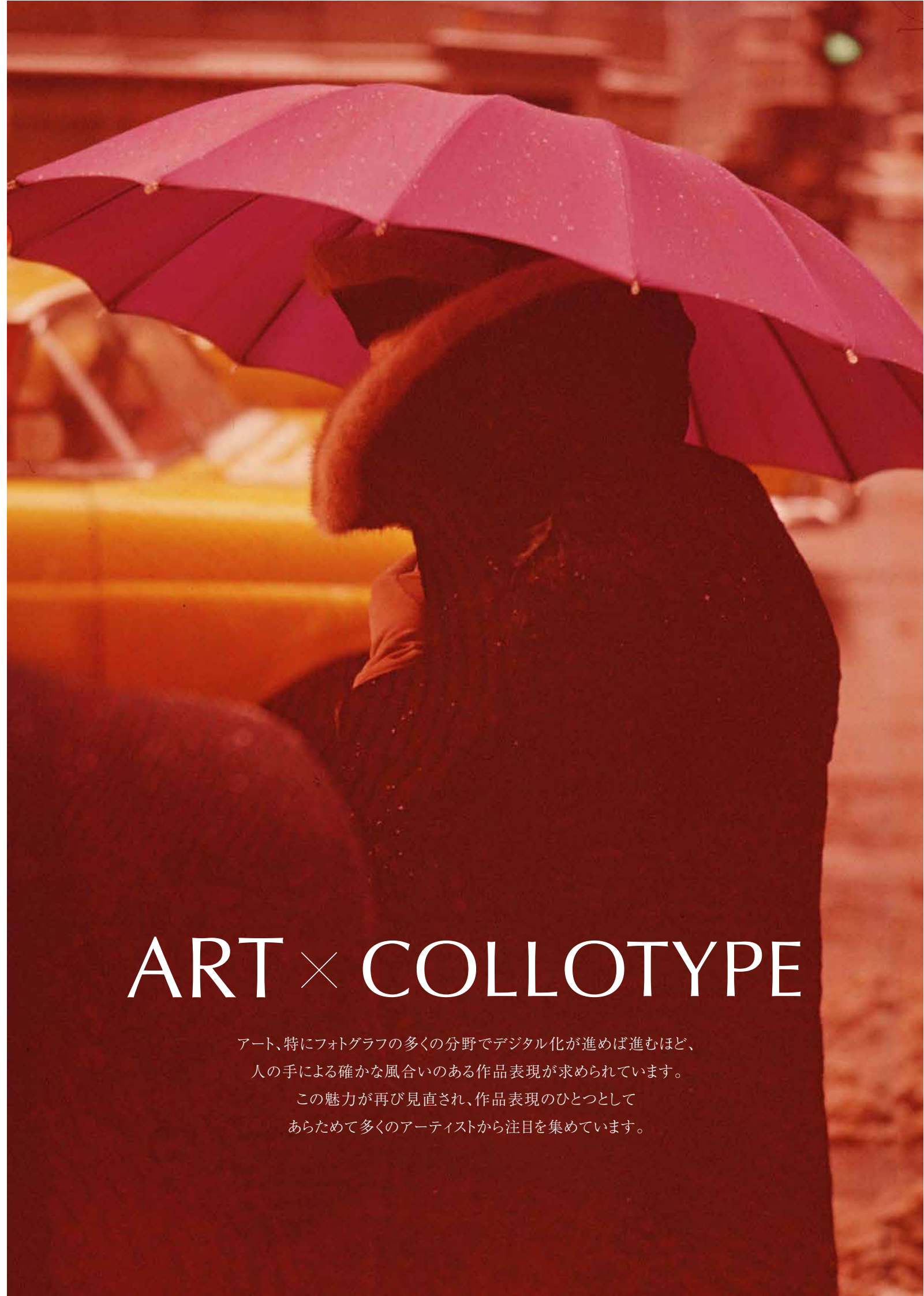
過所船旗 (原本 京都大学文学部博物館蔵) 神奈川県立博物館他 1991年



水野葉舟宛柳田邦男はがき他 複製 (原本 遠野市立博物館他) 遠野市立博物館 1982年



上村松園筆 待月 複製 (原本 足立美術館) 1979年



ART × COLLOTYPE

アート、特にフォトグラフの多くの分野でデジタル化が進めば進むほど、
人の手による確かな風合いのある作品表現が求められています。

この魅力が再び見直され、作品表現のひとつとして
あらためて多くのアーティストから注目を集めています。

表現力 コロタイプ の



作品にいかされるコロタイプ表現の可能性

コロタイプは写真の古典印画技法(オルタナティブ・プロセス)に属しながらも、写真作品のメディアとしては、いままで十分にその表現の場をあたえられてきませんでした。しかし、深いシャドーからハイライトにかけての滑らかな階調をもつモノクロ表現、独特の暖かみをもつカラー表現、顔料を使うことで可能となる自在な色表現など、コロタイプしか持ちえない多くの表現力と可能性があります。この魅力が再び見直され、写真表現のひとつとしてあらためて多くの作家から注目を集めています。

主な実績:

- ・ 植田正治 《童暦》 2004年
- ・ 井津建郎 《BLUE<collotype>》 2017年
- ・ ソール・ライター 《1950's NEW YORK》 2017年
- ・ 深瀬昌久 《Raven Scenes》 2018年
- ・ トーマス・デマンド 《Portal》
イタリア・galleria gentili 2018年
- ・ 須田一政 《民謡山河/物草拾遺》 2019年
- ・ シャロット・デュマ 《ANIMA&STAY》 2019年
- ・ Tokyo Rumando 《XX×XY》 2019年
- ・ 川内倫子 《Early Works 1997》 2021年



ステイブン・ギル 《Night Procession》 2017年



西野壮平 工房見学風景 2016年



植田正治 《砂丘》 2017年



イザベラ・ムニョス コロタイプ作品展示 スペイン・ブラド美術館 2018年



「京都岡崎明治酒場」ポスター(コロタイプ二色刷り) 電通クリエイティブ 2018年

モノづくりに独自の彩りを 添えるコロタイプ

アート作品だけでなく、グラフィック・デザインやプロダクツなどのさまざまなクリエイティブなモノづくりにコロタイプが持つ独自の味わいが採用されています。アイデアと創造力で従来にないモノづくりの可能性が広がります。



北京 三影堂 《設立10周年記念作品集》 2017年



徳永家具工房 作品カタログ 2018年



ナンシー・ロレンツ「MOON GOLD」展カタログ特装版(コロタイプ作品一葉付) サンディエゴ美術館 2018年



エスター・タイヒマン
《On Sleeping and Drowning》 2019年

世界へ、そして世界から ひろがるコロタイプの輪



パリフォトでの出展の様子

世界でも希少になったコロタイプですが、もっとコロタイプを知っていただき楽しんでほしいとの思いから、様々な普及活動を行っています。各国アートフェアや見本市での出店、コロタイプ複製を用いた企画展の開催などを通して、その魅力を多くの方にご覧いただいています。また、一緒にコロタイプを楽しく学ぶための講座やワークショップも開催しています。

主な海外フェア参加実績

artgenève(スイス)

Paris Photo(フランス)

Photo London(イギリス)

AIPAD(アメリカ)

HAUTE PHOTO(オランダ)

PHOTO BASEL(スイス)



富山県高岡市美術館「美の記憶 よみがえる至宝たち」2016年9月16日～10月23日



京都文化博物館「至宝をうつす ー文化財写真とコロタイプ複製のあゆみー」2017年12月16日～2018年1月28日



パリ日本文化会館「コロタイプによる琳派の美」(Japonismes2018参加企画) 2018年11月13日～12月1日

コロタイプ複製を用いた企画展

創業130周年を迎えた2016年以降、これまでに手掛けた文化財のコロタイプ複製を展覧する展覧会を各所で開催しています。見る機会の限られた国宝級の美術品を、ひろく多くの方に間近で鑑賞していただき、改めてその魅力や背景を知っていただきたいとの目的があります。ひいては文化財を護り、未来へとつなぐ一助になればと考えます。



コロタイプアカデミー

コロタイプを知り、学び、実践していただく場として、2017年にコロタイプアカデミーを開校しました。多様なプログラムを用意しそれぞれの受講者の興味やレベルに合わせて熟練の技術者が指導いたします。各コースでは便利堂が独自に研究開発した「コロタイプティッシュ」を使用します。初心者にも扱いやすく、また環境にも人体にも優しい感光剤を用いた版ですので、コロタイプの面白さを安心して体験いただけます。

コロタイプアカデミーは不定期開催となっております。

お申し込みは下記のサイトで開講日をご確認の上、お申し込みフォームよりご連絡ください。また、出張講義・ワークショップのご相談にも応じます。



www.benrido.co.jp/academy



コロタイプアカデミーでの制作風景



スティーブン・ギル「Night Procession」展 清水寺・成就院 2018年



エスター・タイヒマン「On Sleeping and Drowning」展 無鄰菴 2019年

国際コロタイプ写真コンペティション HARIBAN AWARD

国際コロタイプ写真コンペティション「ハリバンアワード」は、世界でも希少となったコロタイプで作品をつくる機会を提供したいという思いから2014年より始まりました。このコンペティションは国内外の作家に幅広く作品を募集し、世界を舞台に活動する編集者やキュレーター、ギャラリストによる厳選な審査によってグランプリ受賞者が選出されます。受賞者は2週間の京都滞在に招待されコロタイプ職人と共同作業で作品を制作します。翌年には京都市内にて完成したコロタイププリントによる個展を開催することができます。

応募要項やこれまでの受賞者は
下記サイトでご確認ください。

www.benrido.co.jp/haribanaward

